

令和4年8月5日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

斑点米カメムシ類が多い状況です

8月2～3日に実施した普通期水稻（40 圃場）の巡回調査において、畦畔雑草のすくい取りを行った結果、斑点米カメムシ類の捕獲数1か所あたり成幼虫計5.0頭は平年（同2.4頭）と比較して多い状況です（表1）。特に、ホソハリカメムシおよびシラホシカメムシ類が多く、県北東部ではイネカメムシ（図1）が確認されています。

既に出穂している圃場や今後出穂する圃場では、適切な防除対策を実施してください。

【作物】普通期水稻

【病害虫】斑点米カメムシ類

防除上の注意事項

- ア 水田周辺の雑草（特にイネ科）は、出穂の10～15日前に除草を行う。出穂直前に除草すると雑草を離れた斑点米カメムシ類が出穂直後の圃場に侵入し被害が助長されるので、出穂直前の除草は行わない。
- イ 農薬は穂揃期とその7～10日後の2回散布を基本とする。
- ウ イネカメムシは全国的に増加傾向にあり、県北東部で確認されている。出穂前から圃場に侵入するので、本種の発生が多い場合は出穂直前に防除を行う。
- エ 1回目の農薬散布は、出穂期前後の基幹防除を有効に活用する。
- オ 防除に使用する薬剤は、大分県農林水産研究指導センター病害虫対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」（<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/boujoshishin.html>）を参照する。なお、薬剤によっては指針の更新日以降に登録内容が変更されている場合があるため、容器のラベルに記載されている使用時期、使用回数等を遵守し使用する。

病害虫対策チームホームページ

<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/>



図1 イネカメムシ成虫